

持続可能な地域公共交通のあり方検討について

1 台東区地域公共交通のあり方庁内検討会での検討結果（詳細は、別添のとおり）

社会的背景・課題をふまえ、本区の交通に係る現状把握及び課題を分析し、概ね今後10年間（令和17年まで）の本区における持続可能な地域公共交通のあり方を検討した。

現状、本区の交通利便性は高く、めぐりんの運行を維持することで区民や来街者などの移動を確保することが可能である。ただし、多面的な視点で評価すると、一部、交通課題を抱える地域があることを確認した。

今後は、地域の交通課題の解消を図るとともに、社会情勢の変化を見据え、自動運転等新技術の活用研究及び新たな交通手段導入に向けた検討を進めていく。

2 今後の方向性

（1）短期的な取り組み（令和8年度～令和10年度）

交通課題を抱える地域である「北部地域」において、当該地域の交通ニーズの把握及び課題分析を深度化するとともに、将来的な交通人材不足等を見据えた自動運転等新技術の活用研究を行う。

また、各地区まちづくりの状況に応じて、グリーンスローモビリティ等新たな交通手段の導入を含めた交通機能の検討を行う。

（2）中・長期的な取り組み（令和11年度～令和17年度）

地域の交通課題に対応し、めぐりん等既存公共交通への応用の可能性も含め自動運転の走行等を見据えた「新たな交通手段導入」の実現を目指す。

3 予算額（案）

26,235千円

4 今後の予定

令和8年度 北部地域における交通ニーズ調査実施及び地域協議開始